

mizuki

みずき
第19号



大阪医科大学附属病院 病院医療相談部 医療連携室ニュース ● 2011年8月発行

contents

- 新任科長の紹介……………P.2
- 診療科からのお知らせ……………P.3
- TOPICS……………P.3
- 医療連携室から……………P.4



新任科長の紹介 ● 泌尿器科 / 消化器外科



泌尿器科 科長

東 治人

(あずま はるひと)

この度、平成23年4月1日付で泌尿器科学教室を担当させて頂くことになりました。
我々の基本理念は「今求められる医療の実践」を常に念頭に置いて、患者様に喜ばれる「いい治療」特に、大阪医大泌尿器科に特徴的な治療の開発と提供に取り組むことです。

例えば、膀胱摘除を余儀なくされる浸潤性膀胱癌に対する膀胱温存治療「大阪医大式膀胱温存療法：OMC-Regimen」は我々がこれまで行ってきた「ニーズにかなう医療」の一例です。「OMC-Regimen」は「抗癌剤動脈内投与+血液透析+放射線照射を組み合わせた本学独自の集学的治療法」で、多くの患者様を膀胱摘出することなく、また、通常の化学療法にみられる副作用を殆ど認めることなく、癌を完治させる画期的な治療法です。この治療法の開発により、元来高齢者が多く、年齢、その他の理由で治療の対象になり得ず、姑息的な治療にとどまらざるを得なかった患者層にも、容易に「根治を目標とした治療」を行うことが可能となりました（現在、高度医療に認可され、全国臨床試験を施行中です）。

また、近年急激する前立腺癌に対しては、早期癌には低侵襲手術である腹腔鏡手術（認定施設取得）を、転移を有する進行癌には「外来通院、内服処方」を基本とした「高齢者に優しい内分泌化学療法—大阪医大レジメ」を開発し、患者様個々のニーズに応じた治療を行っています。この他にも、高齢者の腎癌に対する腹腔鏡下腎部分切除術や、リンパ節転移を有する進行性精巣腫瘍に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術などの数々の先進的低侵襲医療を積極的に行っています。

今後は、これらの治療をさらに発展させるとともに、排尿障害や、男性内分泌医療など、幅広い領域にわたって、「ニーズにかなう医療の実践」に尽力していきたいと考えています。

診療科	泌尿器科	専門分野	腫瘍免疫、移植免疫
資格	日本泌尿器科学会専門医、日本泌尿器科学会指導医、臨床研修指導医、移植認定医、泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本内視鏡外科学会技術認定医		
略歴	昭和 63年 3月 大阪医科大学 卒業 平成 4年 8月 アメリカ合衆国ハーバード大学外科学教室 留学 平成 7年 12月 大阪医科大学 助手(泌尿器科学教室) 平成 11年 9月 大津赤十字病院 泌尿器科副部長 平成 15年 4月 大阪医科大学 講師(泌尿器科学教室) 平成 18年 7月 大阪医科大学 助教授(泌尿器科学教室) 平成 23年 4月 大阪医科大学 教授(泌尿器科学教室)		
特技/趣味	テニス		



消化器外科 科長

内山 和久

(うちやま かずひさ)

この度、平成23年6月1日付で一般消化器外科教室を担当させて頂くことになりました。板谷博之教授、岡島邦雄教授、谷川允彦教授について4代目となり、伝統ある教室を主宰させて頂くことに、その重責を痛感しております。

当院一般消化器外科学教室は食道、胃、大腸などの消化管と肝胆膵脾などの実質臓器に加えて、乳腺、ヘルニアなどの一般外科を扱っており、地域医療の基幹施設として肝胆膵外科、消化管外科、内視鏡外科、乳腺外科をバランスよく推進するように努めております。消化器外科につきましては、胃癌、大腸癌、肝・胆・膵悪性腫瘍、に対する開腹手術はもとより腹腔鏡下手術などのminimally invasive surgeryにも幅広く対応できるように勤めております。例えば大腸癌はほぼ全例腹腔鏡下に手術を施行し、全国トップの手術症例数を誇り、また、直腸癌は出来るだけ人工肛門の造設をしない超低位前方切除術を施行しております。中でも内括約筋を一部切除して癌を根治する究極の肛門温存手術（ISR）は、非常に患者様に喜ばれておりますが、どこの施設でもできる技術ではありません。胃癌についても早期胃癌は当然ながら、当施設ではリンパ節郭清手技の熟達により、進行胃癌についても腹腔鏡手術が適応されています。すでに標準手術となった腹腔鏡下胆嚢摘出術ですが、通常臍部、剣状突起下、肋弓下2穴と計4穴で施行されますが、当院では臍部1穴のみの手術法を開発し、美容上患者様に変好好評です。肝臓外科でもいち早く腹腔鏡を導入し、条件さえ整えば臍部1穴のみで肝切除を施行しております。とくに肝胆膵外科は私の専門領域であり、血行再建が不可欠となる肝門部胆管癌や拡大肝切除が必要となる進行肝癌、門脈再建が必要な膵癌などの高難度手術に積極的に取り組んでおります。また、当科では肝移植も標榜しており、症例によっては生体肝移植を施行しております。今後ともご指導、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

診療科	消化器外科	専門分野	消化器外科、肝胆膵外科
資格	日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本消化器病学会専門医、日本肝胆膵外科学会高度技能指導医、日本がん治療認定医、ICD		
略歴	昭和 58年 3月 大阪医科大学 卒業 昭和 60年 6月 京都大学第2外科 非常勤医員 平成 3年 2月 和歌山県立医科大学外科学第2講座 助手 平成 14年 3月 和歌山県立医科大学外科学第2講座 准教授 平成 16年 7月 UCLA Liver and Pancreas Transplant Centerへ県費留学(6か月間) 平成 20年 1月 和歌山県立医科大学感染制御部 部長兼任 平成 23年 6月 大阪医科大学外科学講座一般消化器外科学教室 教授		



皮膚科から

ストレス・ケア外来開設のお知らせ

アトピー性皮膚炎など多くの皮膚疾患はストレスにより増悪します。疾患そのものの身体的ストレスに精神的ストレスが複雑に絡み合い、さらに不適切な養育などの要因が加わると患者様とのコミュニケーション自体が困難になり治療に大きな支障をきたします。

本学皮膚科ストレス・ケア外来では、難治性皮膚疾患を単なる身体疾患と捉えるのではなく、患者様の背景にあるストレスや心的外傷(トラウマ)にまで目を向け、トラウマ・ケアを含めた全人的医療を行っております。心身症的な要素を持つ難治性皮膚疾患の患者様がおられましたら是非ご紹介いただければ幸いです。まずは初診外来(水・金曜)に患者様をご紹介ください。

- 外来名称 / ストレス・ケア外来
- 診療日時 / 毎週水曜日 13:00~16:00
- 場 所 / 皮膚科外来
- 担 当 医 / 上田 英一郎
- 料 金 / 自費診療
 - ◆ カウンセリング / 20分 5,000円
 - ※ただし、延長になった場合には、20分単位で5,000円追加徴収
 - ◆ 心理検査 / 1回 3,000円

産科・内分泌科から

助産師外来のご案内

平成23年6月より、当院で出産される方を対象に、助産師外来がスタートしました。お産や育児についての思いなどじっくりと相談していただけるように、30分程度の予約制としています。

〈対象者〉

- 当院医師から助産師外来の受診を勧められた方
- 妊娠経過に問題がなく、ご自身で助産師外来の健診を希望され医師の許可が得られた方

〈健診内容〉

- 腹囲、子宮底の測定
- 赤ちゃんの心音の確認
- 赤ちゃんの超音波検査(赤ちゃんの様子)
- 妊娠中の保健指導、栄養、生活指導
- 母乳栄養指導 など



TOPICS

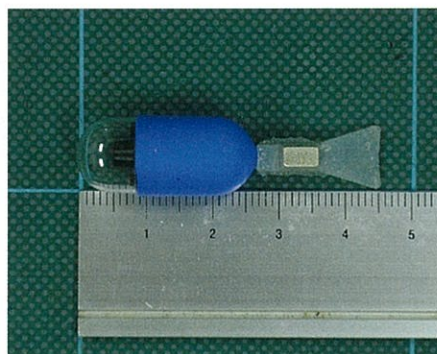
内科学2 教授(消化器内科 科長) 樋口和秀

泳ぐ内視鏡—大阪医科大学が開発

遠隔操作で体内を”泳ぐ”小さなカプセル内視鏡=写真で、龍谷大学と共同開発し、このほど人間の胃と大腸の撮影に成功しました。自走式のカプセル内視鏡で大腸を撮影したのは世界初。

この内視鏡は直径約1cm、長さ約4.5cmで、魚の尾びれのような駆動装置で泳ぎます。胃の観察では口から飲み、大腸ではお尻から挿入します。

従来の自走できないカプセル内視鏡では向きや移動の速さを制御できず、狙った場所を十分に撮影できませんでした。将来は、食道~大腸までの全消化管をひとつのカプセルで検査ができるようになる可能性があります。実際の臨床応用は、数年先と思われます。



医療連携室から

●平成23年度 四医師会 大阪医科大学附属病院医療連携の会

7月16日 於ホテルグランヴィア大阪



近隣医師会(高槻市、茨木市、摂津市)の先生方と大阪医科大学医師会との連携を深めるために今年も例年通り開催いたしました。

お暑い中、総勢95名の先生方にお集まりいただきました。

特別講演会では、本院の医師で6月に消化器外科科長に就任いたしました、内山和久が「肝がんに対する肝切除術について」、化学療法センター センター長・瀧内比呂也が「がん治療における地域連携クリニックパス」と題して、がん診療拠点病院、がんクリティカルパスについてなどを、お話をさせていただきました。当院へのご理解を深めていただき、また少しでも先生方の日ごろの診療のお役に立てていただければ幸いです。



懇親会も多数の先生方にご参加いただき、にぎやかな情報交換の場となりました。お忙しい先生方ですが、楽しく、有意義な時間をお過ごしただけなことと思います。



●みずきアンケート調査ご協力へのお礼とご報告

本誌18号に同封し実施しましたアンケート調査に対し、多数の医療機関さまからご回答をお寄せいただきましたことにつきまして深く感謝申し上げます。いただきましたご意見を、今後の広報誌づくりに活かしていきたいと思っております。

今回の回答の中で「みずき」に取り上げてほしいテーマで、「診療科の専門外来の紹介」とのご意見を多数いただきました。今後は「診療科からのお知らせ」のコーナーで紹介させていただく予定です。また、文字が小さいというお声を受け、今号から右記の様に、文字サイズを大きくしています。

なお、ご意見は随時承りますので、お気づきの点などございましたら、電話・FAXなどでお寄せいただければ幸いです。

これまで

今回の回答の中で「みずき」に取り上げてほしいテーマで、「診療科の専門外来の紹介」とのご意見を多数いただきました。

今号から

今回の回答の中で「みずき」に取り上げてほしいテーマで、「診療科の専門外来の紹介」とのご意見を多数いただきました。

医療連携室ご利用の案内

医療連携室「FAX紹介申込書」受付時間

●平日/8:30~16:00

●土曜日/8:30~12:00 ※第2・4土曜日は休診です。

※FAX受付は24時間可能(休診時も含む)。

但し受付時間以外の受信については翌診療日以降の対応となります。

送信先

FAX. 072-684-6339

大阪医科大学附属病院 病院医療相談部 医療連携室

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7

TEL.072-683-1221(大代表) 内線2308

TEL.072-684-6338(医療連携室直通)

当院専用のFAX紹介申込書、診療情報提供書(紹介状)及び封筒をご用意しております。

ご利用の場合は、電話またはFAXにてご請求ください。